

[速報版]

○委員長（粕谷 稔さん） ただいまから、調布飛行場安全利用及び国立天文台周辺地域まちづくり特別委員会を開きます。

○委員長（粕谷 稔さん） 初めに休憩を取って、本日の流れを確認いたしたいと思います。

○委員長（粕谷 稔さん） 休憩します。

○委員長（粕谷 稔さん） 委員会を再開します。

○委員長（粕谷 稔さん） 本日の流れにつきましては、1、行政報告、2、議会閉会中継続審査申出について、3、次回委員会の日程について、4、その他としたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

そのように確認をいたしました。

○委員長（粕谷 稔さん） 休憩いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 委員会を再開いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 企画部報告、本件を議題といたします。

本件に対する市側の説明を求めます。

○企画部長（石坂和也さん） 本日の企画部からの行政報告は1件で、資料のかがみ文に記載のとおり、調布基地跡地関連事業推進協議会関係課長会の開催結果概要についてです。当該関係課長会は、都の副知事、地元3市の市町で構成される調布基地跡地関連事業推進協議会、いわゆる4者協でございますが、この個別の課題を協議、調整するための課長級職員で構成する会議体でございます。8月21日に開催された、令和8年度第1回関係課長会における議題の報告となります。

なお、別途配付させていただいている情報提供資料は、株式会社東京スタジアムの経営状況等について、東京都調布飛行場の離着陸状況についての2件でございまして、いずれも定例的な内容となりますので、席上配付とさせていただければと思います。

説明は以上となります。詳細については、課長から御説明させていただきます。

○企画経営課長（山口和昭さん） 私からは、調布基地跡地関連事業推進協議会関係課長会の開催結果概要について御説明させていただきます。1ページを御覧ください。当日の議題は、下段、2、開催結果概要、(1)のウに記載のとおりでございます。

1点目は、調布基地跡地の状況についてで、多摩川、荒川等流域別下水道整備総合計画、いわゆる流総計画の見直しに伴う検討状況となります。東京都からは、現在も関連部署と調整するなど、引き続き検討中とのみ報告がございました。

2点目は、調布基地跡地留保地の活用による施設整備についてでございます。こちら、2ページを御覧ください。別紙1となります。調布市から、7月10日と11日に開催された土地利用構想説明会の資料に基づく説明がございました。5ページの下段、調布市の検討経過などを御覧ください。これまで本委員会でも御報告してきましたとおり、F C東京からの提案を踏まえまして、令和7年12月に調布基地跡地留保地施設整備基本計画を策定し、現在、整備に向けて設計を進めているとのことでございます。

続いて、7ページを御覧ください。土地利用構想の概要でございます。調布市とF C東京が共同事業者となり、防災・スポーツレクリエーション機能を有する都市公園を整備するものでございます。対象区域は、既存の西町公園を含め、約6万8,440平米で、災害時には一時避難場所等として活用し、また、既存樹木を可能な限り残すなど、周辺環境への影響を抑える考えが示されました。

8ページを御覧ください。土地利用構想図となります。そちらに記載のような配置規模となる計画で、

[速報版]

まる5の公園管理棟に施設利用の受付、更衣室、シャワー室、トイレ等が設けられ、まる6の天然芝フィールド及び、まる7の運動施設棟は、主にFC東京の練習拠点とする計画が示されました。

続いて、9ページを御覧ください。右側の工事の概要でございます。期間は令和9年2月下旬から、令和10年5月下旬までが予定されておりまして、市が用地取得後、令和8年秋頃から整地工事を実施予定とのことでございます。

10ページを御覧ください。土地利用構想に関する意見書の受付を7月2日から23日まで行っており、現在、見解書を調整中で、意見書及び見解書は今後、縦覧されるとのことでございます。

少しページが飛びまして、33ページを御覧ください。事業手法につきましては、調布市が国から土地を取得、具体的には3分の1購入し、残りは無償で借り受けること、FC東京が練習拠点となる施設を整備して、市に寄附し、市は公園全体を運用すること、都市計画や都市公園に関する条例の整備など、土地利用に関する課題に対応すること、指定管理者制度を基本に検討することなどが示されました。

また、スケジュールについては、基本設計から引き続き、実施設計、建築確認申請を行うとともに、用地取得手続終了後は、整地・造成工事、その後、年度をまたいで施設整備を実施し、令和10年度の供用開始・運用を目指しているとのことでございます。

なお、国との土地売買契約の締結をはじめ、施設整備に必要となる都市計画、都市公園関係条例の制定や一部改正、整地工事契約の締結などについて、9月の調布市議会第3回定例会に関係議案を提出されているとの説明を受けております。

説明は以上となります。

○委員長（粕谷 稔さん） 市側の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質問のある方。

○委員（前田まいさん） 若干お伺いします。この会議の開催結果の議題の（ア）の基地跡地のほうの議論なんですけれども、先ほど、下水道の流域の計画についての検討だということで、東京都からは引き続き、まだ検討中というようなお答えだったかと思うんです。決算審査特別委員会でも議論になりましたが、当面の間はなかなかこの計画の進捗が難しいということなのか、スパンが見えなさ過ぎて、どのくらいかかるのかが分からないんですけれども、その辺りの議論はありましたでしょうか。

○企画部長（石坂和也さん） 当日の課長会ではそこまでの議論は出ていなくて、検討がまだ進んでいないといったようなところでございます。さきの特別委員会の議論でいきますと、まだ市長同士の会話には至っていないというところではございましたが、部長レベル、課長レベル、私どもの企画部門でも、そういった意見交換をしているところでございます。

まずは、どこに、どの程度の規模で造れるのかといったことは、今の下水道局の令和7年度の調査といったところでございますので、そういった案を今整理している段階だというふうに認識しています。また都市整備部門と連携しながら、進捗がありましたら、こういった場で御報告したいというふうに考えています。

○委員（前田まいさん） もともとの野川の処理区をつくる予定地が、この味の素スタジアムの北側の、現在グラウンドとして使用されているところだと思うんです。もし、そこが中長期的に特に進捗がなくて動かないということであれば、何か暫定的な利用みたいなことを検討し得るのかというのは、ぜひ東京都のほうに探っていただければなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○企画部長（石坂和也さん） 深掘りしていくと、なかなか答えにくいところが正直あるんですが。

[速報版]

まず、今の暫定施設と言われている野川処理区、そこは今、暫定的なスポーツ施設ができているといったところでございます。私ども、流総計画の回答をしたときに申し上げていることは、早期に接続といったところで、できれば完成前にも森ヶ崎に接続できるようにと要望しているところなんです。

ですので、グラウンドというのも視野に入れつつも、まずはそういった流総計画に対する回答書を踏まえて、森ヶ崎の接続というのが、今、市民利用というところでは影響がないのかなと思っています。いずれにいたしましても、まず東京都のどこが可能なのか、どの程度の規模なのかという調査が先決だというふうに認識していますので、それをきちっと見定めた上で対応していきたいと、そのように考えています。

○委員（前田まいさん） 分かりました。全然別件ですが、私としては都立調布特別支援学校の建て替えに伴う仮設校舎の問題等もありまして、この周辺地域で活用できる土地がないかというのを関係者の中でも探した中では、もしここがそんなに動かないのであれば、仮設校舎の4年間ぐらいの間は、場合によってはあり得るかなというふうにも思っています。それは調布の方からも聞いていただいたりはしているんですけども、分かりました。

それから、この西町のほうの整備等については、基本、調布市とFC東京さんとの間の話なので、市のほうに何か関係してくるとか、影響がある部分があれば、教えてください。

○企画経営課長（山口和昭さん） 直接、三鷹市への影響というのは、この間の説明の中ではなかったところでございます。東側の道路が天文台通りに面している等ございますので、そういったところの交通量調査というのはしっかりとやっていくということで、説明を受けております。

○委員（前田まいさん） 分かりました。あと、避難場所となる予定なので、それはここに限らずと思いますが、場合によっては三鷹市民の方も避難できるという解釈を、今後もしっていて大丈夫でしょうか。

○企画経営課長（山口和昭さん） 避難所の指定については、施設が出来上がってからの指定になります。今のところの予定だと、一時避難場所等々として活用するということの説明を受けております。一時避難場所でございますので、緊急的な生命を守るための避難ということで使う場合には、当然使えるというふうには思っておりますけれども、例えば避難生活をする避難所といったような形になりましたら、調布市との施設ができた後の事前調整等、また、災害時の応援協定等に基づく市からの要請みたいなものが必要だというふうには認識しております。

○委員（石井れいこさん） よろしくをお願いします。FC東京のところなんですけれども、この公園整備として市が土地を取得、敷地全体のうち国から3分の1購入、3分の2が無償借受けということで、これは国有地の土地を買う場合のスキームということで合っていますか。

○企画経営課長（山口和昭さん） 調布市からの説明ですと、財務省からの通達によって、国有地を公園として利用する場合に、3分の1を売払い、残り3分の2は無償の貸付けという説明を受けました。

以上です。

○委員（石井れいこさん） かしこまりました。このスキームって、ちなみに国立天文台でも使えたりするんでしょうか。

○企画部長（石坂和也さん） そこまで確認はできていないところなので、かつて古い通達の中で基地跡地の、私の認識だと特例的に、ここは3分の1というふうに行っていると認識していますので、天文台までの確認には至っていないところでございます。

[速報版]

○委員（石井れいこさん） 分かりました。あと、このグラウンドで人工芝を使うところもあります。マイクロプラスチックが懸念されるのかなというふうに思うんですけども、地下は流れてくるものもあるので、そういった点、三鷹市にとってはどういう影響があるのか、計測をしたものは必ず報告していただくのかなど、こういったお話がありますでしょうか。

○企画部長（石坂和也さん） そういった話は、課長会には特に出ていなかったところでございます。ただ、今、基本設計を進めているというところでございますので、今日こういった御意見があったということは、調布市にもきちっと伝えたいというふうに考えています。

○委員（石井れいこさん） よろしくお願ひします。この間、井ログラウンドのときにも計測していないということだったので、三鷹市からもその声を出していただければと思います。よろしくお願ひします。

○委員（山田さとみさん） よろしくお願ひします。私からは、先ほどもお話がありましたけれども、災害時の、調布市のこのハザードマップを見ると、ちょうどエリアから外れていて、しかも野川から近くて、ハザードマップがかかっていないというところで、可能性を感じているところであります。三鷹市も、防災の話ではありますけれども、地震のことも含めてですけれども、避難できる場所をこれまで探していたと思います。

調布市との連携というのも話に出ていたところですので、こういった可能性のある施設ができるということを、ぜひ庁内でも連携して防災力向上に努めていただきたいと思いますと考えますが、現状を教えてください。

○企画経営課長（山口和昭さん） 三鷹市と他の市町村との災害時の協力みたいなところでいきますと、一応、多摩地域、市町村による広域的な相互応援という協定で、多摩の区市町村が相互に協定を結んでいるような形での協力関係がございます。そういった中で、この施設ができて、どういう施設になるのかということが明らかになってきたところで、防災部門とも連携して、こういったところで相互に応援で使えるような形で、協力していきたいというふうに考えております。

○委員（山田さとみさん） 現在、こういう施設ができるというのは、庁内で防災安全部と情報交換、こういうのができるよみたいな話というのは共有されているんでしょうか。

○企画経営課長（山口和昭さん） 具体的に細かい話まではまだしておりませんので、ここで今、基本設計が終わったということで、今回、議会のほうに用地の取得等の議案も上がっておりますので、状況を見ながら、なるべく早めにお互い共有していきたいというふうに思っております。

○委員（山田さとみさん） ぜひよろしくお願ひします。

以上です。

○委員長（粕谷 稔さん） その他、よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

以上で、企画部報告を終了いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 休憩いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 委員会を再開いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 三鷹市国立天文台周辺地区まちづくり推進本部報告、本件を議題といたします。

本件に対する市側の説明を求めます。

[速報版]

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） 本日、推進本部からの行政報告1件、国立天文台周辺のまちづくりの進捗状況についてでございます。提出しております資料に基づきまして、担当より御説明申し上げます。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
私のほうから、報告事項のア、国立天文台周辺のまちづくりの進捗状況について説明させていただきます。

資料1、国立天文台周辺のまちづくりの進捗状況についてを御覧ください。1、国立天文台周辺地域土地利用整備計画策定に向けた基本的な考え方の改定の方針性についてです。物価高騰などの社会経済情勢により、新都市再生ビジョンどおりの事業進捗が困難となっている状況を踏まえ、昨年、優先プロジェクトも例外とせず、効率的に事業を実施する工夫等を検討し、現在の社会経済情勢の中で実現可能なプランへの転換を図ることとしました。

いまだに公共事業を取り巻く状況や財政見通しについて予断を許さない状況ではありますが、国立天文台周辺地域土地利用整備計画策定に向けた基本的な考え方の改定に向けた検討について、本日はその方針性を説明させていただきます。

それでは、別紙1、国立天文台周辺地域土地利用整備計画策定に向けた基本的な考え方の改定の方針性についてを御覧ください。令和7年9月に公表した現行の基本的な考え方では、おおさわコモンズの全体像、施設づくりエリア、緑地保全エリア、通学支援、羽沢小学校の将来的な跡地利用、野川周辺の防災対策等について、それぞれ整理してきましたが、現在の社会経済情勢等の中で実現可能性を高めるため、土地利用基本構想で示す将来像を維持しながらも、当初想定した事業の枠組みや進め方ではなく、地域課題を少しでも早く解決できるよう、早期に着手できる取組から、段階的に整備を進める構成に見直す必要があります。

この段階については、大きく第1段階と第2段階以降で整理をします。おおさわコモンズの創出については、防災・減災の取組を最優先として、実現可能なことから進めるほか、土地利用基本構想で掲げるみんなが集う地域の共有地の創出、天文台の森の次世代への継承、子どもを取り巻く環境の整備といった視点を踏まえながら、検討委員会等で寄せられた地域課題解決につながる取組の中で、早期に整理、検討すべきもの、かつ可能なものを第1段階として位置づけます。また、義務教育学校を含むおおさわコモンズの施設整備や、将来的な公共施設の跡地利用など、全体像の実現に向けて、事業内容、財源、実施時期等、引き続き検討が必要なものについては、第2段階以降の方針性として再整理します。

そして、そういった検討状況等を踏まえながら、実施内容、時期等を整理する土地利用整備計画、こちらにつきましても段階的に策定していきます。今、説明させていただいた内容をまとめたものが資料下の表になります。現行版の基本的な考え方では、テーマごとに考え方を整理していますが、改定版では早期に整理、検討すべき取組である第1段階と、方針性を整理する第2段階以降といった具合に、再構成することを検討しています。

資料1にお戻りください。2、改定のスケジュール（予定）ですが、令和8年12月に基本的な考え方（改定）の中間報告、令和9年3月に基本的な考え方（改定）の作成を予定しています。なお、中間報告においては、第1段階の具体的な取組内容について報告できるよう、今後、関係者などと協議を進めてまいりたいと考えています。

私からの説明は以上です。

[速報版]

○委員長（粕谷 稔さん） 市側の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

○委員（前田まいさん） よろしくお願ひします。率直に申し上げて、すごく漠とした方向性が示されただけで、どういう見直しが図られるのかがほとんど見えてきません。前回の委員会でも質問したことを、もう一度お伺ひします。昨年11月のいわゆる緊急対応方針、それ以降、約10か月たちますが、基本的な考え方の改定に向けて、具体的にどのような検討作業を行ったのか、お伺ひします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

こちら、委員のおっしゃるとおり、前回のお答えと重複する形になるんですけども、緊急対応方針では、必要なことを選択するであるとか、段階的にやっていくだとか、いろんな要素として打ち出してはきたんですけども、あくまで検討の要素として、段階的というところは含まれたかと思うんですけども、今回、方向性として段階的というのを示させていただいたというところでございます。

○委員（前田まいさん） 段階的にやるんだということ、この間検討してきたということですね。それは、そうするってしたんじゃないんですか。そうじゃなくて、どういうふうな段階を踏めるかという、もうちょっと具体の中身についてはどの程度検討されたのかを、お伺ひしたいんですよ。

前回も効率的な工事手法という表現があったんですけど、例えばその効率的な工事手法については、どのような検討をしたんでしょうか。こういう手法なら、こうなりそうだとか、この手法では時間がかかり過ぎる、あるいはコストがかかり過ぎる、幾つか手法を検討されたかと思うんですが、していないんでしょうか。

○委員長（粕谷 稔さん） ちょっとお待ちください。委員の皆様へ申し上げます。三鷹市議会委員会傍聴規則第3条の規定により、協議会室における傍聴人の定員は9人となっておりますが、傍聴希望者が定員を超えましたので、委員長において定員を変更いたしました。

次に、傍聴者の皆様に傍聴の際にお守りいただく事項を申し上げます。委員会室における言論に対し、拍手その他の方法で可否を表明しないこと。携帯電話、パソコン、タブレット端末等の情報通信機器は、電源を切るか、着信音が鳴らないよう設定し、使用しないこと、そのほか、傍聴受付の際にお渡しした諸注意に記載のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

この間、段階的に整備することだけを検討してきたわけではなくて、最終的な全体像の整備につきましても、どうすればいかに事業費を抑えられるかといったところの検討もしてきております。ただし、その部分につきましては、他の優先プロジェクトとの調整を図りながら、引き続きこの先も検討していくことになりますので、まだ現時点でお示しはできません。

今回は、現時点でお示しできる内容としまして、基本的な考え方の改定に向けた方向性を御報告させていただいているところでございます。

○委員（前田まいさん） そうすると、他のプロジェクトがある程度決まらないと、できないということにもなりません。要は、駅前再開発だというふうに思うんですけども。その順番というか、両方ずっと調整しながら、検討していくんですか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 天文台事務局から、他の事業を含む優先順位についてのお答えはちょっと難しいところがありますけれども、防災・減災の観点から、どの事業も優先的に進め

[速報版]

るべき事業だとは考えております。しかし、現在の社会情勢等も踏まえ、これらの事業を同時期に並行して実現を目指すということは難しいという考えであります。それは、ほかの事業についても同じです。

そうしたことから、財源の見通しなどの観点から、事業の時期や事業費などについて再調整を行うこととしております。そうした観点を踏まえると、事業規模が大きく、また他のプロジェクトの再調整も大きく影響があることから、駅前再開発の方向性を中心として、この再調整を図っていくことになるというふうには考えております。

各事業ごとで、再検討においても、どの事業も実現には長い期間を要することが想定されますので、この事業ごとの時期の調整も図っていくと、その事業の中での調整も図っていくことと考えております。その手法として、今回、段階的な進め方の検討に着手しているというような状況にあります。

○委員（前田まいさん） 重要な御答弁だったというふうに思います。やっぱり駅前を中心に考えるということが軸にあって、ただ、その間、ここを何もやらないということではないということは確認できたかなというふうに思います。

そうだとするとなんですが、前回、北側ゾーン全部を使うわけではないという御答弁があったんですが、これについては、4.8ヘクタール全部は使わないということに変わりはないのか。ならば、どの部分を使う方向なのか。固まっていなくても、この辺からこの辺みたいなことで示すべきではなかったと思いますが、お伺いします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

どの辺りを使うであったりとか、ゾーニングであったり、そういったところも、繰り返しになりますけど、検討はしているんですけども、天文台さんであったりとか、協議相手がある中で、今現在お示できないというところが回答になります。

○委員（前田まいさん） 今日は示せないということで、受け取ります。

それから、事業費について今一定、少しありましたけれども、事業費や、財源についての検討というのはどの程度進められたのでしょうか。活用を予定している補助金や交付金等があれば、メニュー名を教えていただきたいです。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

事業費につきましては、いろいろ具体的にパターンを検討していく中で、我々もその部分は意識を持ちながら当然やってはおります。まだ現時点で調整中というところがございますので、お伝えできることというのはないんです。

一方、歳入につきましては、補助金というのを活用を考えております。例えば、立地適正化計画を策定したことによります都市機能再編集中支援事業とか、あとはおおさわ commons ということで、学校の整備に当たっては、文科省の補助金、交付金も使用できるんじゃないかということで、今いろいろ可能性を探っているといった状況でございます。

○委員（前田まいさん） 分かりました。それから、これまで一般財源100億円を上限と示してきた中で、前回の委員会では100億円よりは抑えたいんだという趣旨の御答弁もありました。この点、一般財源の支出をどのくらい抑えられるかの具体的な検討は、じゃあ、そこまでは行かなかったという理解でよろしいでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

検討はしているんですけども、具体的なところをお示しできるところまでは至っていないという形に

[速報版]

なります。

○委員（前田まいさん） できれば幾つかのパターンとかでも、あるいは幅のある示し方でもいいので、示していただきたかったなというふうに思うんですが、今までの答弁を聞いていると、それも難しいのかなというふうには思いました。

それで、今年度に基本的な考え方の改定をすると、部の方針と重点管理事業では示されています。次の12月の委員会に中間報告ということなんですけど、先ほど第1段階に当たる部分を12月に示す方向ということは言われました。年度内の改定は難しくなっているのではないかと思います、御所見をお伺いします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
中間報告で第1段階の具体的な取組、協議を進めて、報告できるようにしたいというところと、その報告の上で、年度内の考え方の改定の作成というのは、現時点においてその目標は変えていないようなところでございます。

○委員（前田まいさん） ごめんなさい、ちょっと分からなかったんですけど、もう一度お願いできますか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
年度内の改定を目指しているというところでございます。

○委員（前田まいさん） 目指してはいるがというようなところかなと思います。それと、この後の11月から3月の間にやる予定とされている現況測量については、予定どおり行われるのでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）
現況測量につきましては、先ほどもちょっとお話が出ましたけれども、北側ゾーンのどの辺りを使うのかという一定の方向性が見えた段階で、高低差を中心に測量したいという予定をしておりましたけれども、現時点では、方向性として、まず第1段階の具体的内容を詰めていきたいとなっておりますので、現時点で現況測量に入れるタイミングというのが、ここだというふうにめどがついている状況ではございません。

○委員（前田まいさん） 分かりました。早ければ11月かなと思いましたが、それも年度内いっぱい検討なのかなというふうに思います。もし、やると決まっているなら批判しようと思ったんですけど、分かりました。

それから、この別紙1なんですけれども、私、読み解くのがなかなか難しく、少し箇条書にして整理もしてみたんですけど、そうすると、いろいろ矛盾を感じるので、確認させていただきたいというふうに思います。

まず、第1段階をやるということで、4つの視点という形で示されていて、それを踏まえて検討委員会等で寄せられた地域課題の解決につながる取組の中で、早期に整理、検討すべきものというふうになっています。その視点の捉え方がどうなのかというのが共有されないと、これ、読む方によっていろんな受け取り方ができるんじゃないかなと思ったんですよ。

最優先で進める防災・減災の取組というのは、どういうところを指しているのか。もう少し具体的な中身をお伺いしたいと思います。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）
具体的な部分につきましては、まさに今検討中ということで、今度の12月の中間報告では一定のどこ

[速報版]

ろをお示しできればなと思っておりますけれども、地域にとっての防災・減災に資する何か機能みたいなものを盛り込めればということで、考えているところでございます。

○委員（前田まいさん）　そうすると、じゃあ、この間はこのテーマをどういう順番でやるかという検討をされていて、それよりさらなる具体化というのは難しかったということでしょうか。例えば防災・減災のまちづくりの取組として何ができるか、止水板を設置するとか、あるいは別途、貯留施設を造るとか、移動支援等もやられていますけれども、避難行動をより強化するとか、そういう検討までは至らなかったということよろしいですか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん）　具体的な検討をしてないかといいますと、この間、今委員がおっしゃったような内容について、しております。ただ、具体的内容をお示しするまでの検討は進んでおりません。

まずは、防災・減災の取組の中で、現実的に実施可能な範囲、また、その内容について進めたいというふうに考えております。現時点では、そういった面から、具体的な防災・減災の取組内容についてはお示しできないので、次回、中間報告にはその部分についても御報告できるように調整は進めたいというふうに考えております。

○委員（前田まいさん）　しかし、市長は、防災・減災のためには学校移転が必要なんだと言っていたのではないんですか。そうすると、そうではない方法で防災・減災を図ることとしたということでしょうか。実施可能な範囲で進めたいというときに、学校移転は実施が難しいというふうに捉えていらっしゃるのか、確認します。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）　学校移転による防災機能の強化の代わりに別なことをやるということではなくて、あくまで最終形としてその部分は考え方を維持しつつ、そのほかの取組で、地域の防災・減災に資するものを見つけ出して、取り組んでいきたいというふうに考えております。

○委員（前田まいさん）　次のみんなが集う地域の共有地というのは、何を指しているのか確認したいと思います。基本構想には、おおさわコモンズの主な機能ということが書かれていて、4つあるんですけど、まる1、天文台の森の学校、まる2に、みんなが集う地域の共有地という同じ表現が使われていて、移転する西部図書館を中心に、新たに設ける交流施設や、学校3部制の考え方にに基づき、学校施設を活用して云々と書いてあるんですよ。まる3が、天文台の森の次世代への継承、まる4が命と暮らしを守る防災拠点ということなんですが、みんなが集う地域の共有地というのは何を指していらっしゃるのか。

これは、学校統廃合と西部図書館の複合施設ということの理解でよろしいですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）　学校と図書館だけではなくて、緑の部分とか、そういったところにも、地域の皆さんがお越しいただいて触れていただくとか、そういったところも含めて、おおさわコモンズという形で位置づけをしているところでございます。

○委員（前田まいさん）　でも、学校は持ってくると。先ほどの答弁からすると、いずれ学校は移転するという方向性なのは変わらないということですよ、もう一度確認します。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まち

[速報版]

づくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） その方向性については変わっておりません。

○委員（前田まいさん） だけど、今回の別紙2だと、第2段階以降のところに、おおさわコモンズの施設整備ってあるんですよ。学校施設なり、その複合施設の整備というのは、これは第1段階、第2段階、どっちなんですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

学校整備に関しましては、第2段階以降のほうです。

○委員（前田まいさん） 分かりました。この表現がすごく曖昧なので分かりづらいんですよ。おおさわコモンズの施設なんて書かないで、羽沢小学校の移転と、大沢台小学校の移転と、また義務教育学校の整備だと、端的に言えば学校統廃合と書けばいいじゃないですか。それが2段階目以降にずれるということを、今日確認したいというふうに思いますが、よろしいですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

学校設備、施設に関しましては、第2段階以降にずれるという形で。

○委員（前田まいさん） 天文台の森の次世代への継承というのも、市としてはどういうイメージで持っておられるんでしょうか。逆に、我々からすると、森を継承するというなら、学校を移転して緑の敷地を潰すことはあり得ないわけですよ。そうじゃなくて、現在、竹の繁茂によって健全とは言えない樹木等を保全するんだと、それを優先してやるんだという趣旨と受け取ってよろしいですか。この森の継承という部分の視点というのを、もうちょっと具体的に御説明ください。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

土地利用基本構想を策定する段階でいろいろ御説明させていただきましたけれども、現状、必ずしもよくない状況があるという中で、その中で市が手を入れることで、例えば里山的な整備をしたり、地域の方に親んでもらえる緑というのをつくって、それを次世代に引き継いでいくというのが趣旨でございます。

○委員（前田まいさん） 分かりました。それは私も求めていたことなので、いろいろ具体化する前に、逆に森が荒れていっちゃう現状を見ていると、そこは逆に優先してやるべきだということとは共有したいというふうには思います。

それから、子どもを取り巻く環境の整備というのは、どういう意味でおっしゃっているんでしょうか。学童保育所なのか、あるいは公園を整備したいのか、それとも全く別の何か子ども関連の施設整備を考えていらっしゃるんでしょうか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（越 政樹さん） 今、順に御質問いただいています、ここに列記している事項ですけれども、こちらにつきましては、土地利用基本構想の中で、構想何番という形で柱立てしている部分の視点を、引き続き持ちながら検討していくという趣旨で記載されているものでございます。

したがって、子どもを取り巻く環境整備というところで、土地利用基本構想において考えていたことから、新たに何か今の時点で検討しているかと言われますと、そういうことではなく、このとき基本構想で掲げた子どもを取り巻く環境の整備、教育の充実等を含めて、引き続きそういった視点も持ちながら、この第1段階、第2段階の中で検討をしていきたいということで、記載しているものでございます。

○委員（前田まいさん） そうすると、基本構想では、構想4として、子どもを取り巻く環境の整備

[速報版]

というページがありまして、具体的な内容まる１が、森の学校なんです。だから、第１段階なのか、第２段階なのか、森の学校の整備でしょう。それで、具体的な内容の２は、跡地利用と通学へのサポートですよ。森の学校、つまり学校統廃合を前提とした後、先の話であって、本当、分からないです。

第１段階で取り組むという中に学校の整備が入っているんですけど、それは第２段階だというふうにおっしゃる。そこが、さっぱり分からないんですよ。私の疑問の趣旨は分かりますか。もう一度お願いします。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（越 政樹さん） 分かりにくい御答弁になりまして、申し訳ございませんでした。あくまで、ここの具体的な内容それぞれを、この第１段階として位置づけるということではなく、土地利用基本構想で示したこの視点を引き続き持ちながら、第１段階の検討に当たっていくということをごさしまして、学校の整備自体が第１段階に含まれるということではございません。

○委員（前田まいさん） 分かりました。若干、課題として、この構想に掲げたものを基本の理念として取り組むということで、理解はしたいというふうに思います。そして、学校の施設整備なり、学校統廃合はもう少し後の第２段階だということに理解したいというふうに思います。

それから、検討委員会等で寄せられた地域課題の解決につながる取組というのも、具体的に検討委員会にどういうものが寄せられたのか、その中で早期に整理、検討すべきものというのは、市として何だとお考えなのか、お伺いします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
検討委員会で寄せられた地域課題の解決につながる取組ですけれども、検討委員会の意見のまとめの中で申し上げますと、日常的な防災拠点に地域がつながり、災害時にも対応できるであったりとか、具体的なところだと、防災工作・ものづくりの場が必要ではないとか、そういった御意見がありましたので、具体のところの取組というのは、また中間報告に向けて協議であったり、検討を進めてまいりたいと思うんですけども、考え方、取組の検討委員会で出されたものというのは、先ほど申し上げたところになります。

○委員（前田まいさん） ただ、検討委員会というものは、ここの学校を整備したときのどうあるべきかという検討だったというふうにも思いますので、もちろん、まちづくり全体を全く議論していないということではないとは思いますが、しかし、検討委員会だけで議論すればいいという話ではないということは、これまでもお伝えしてきたはずですよ。なので、何を地域課題として捉えるかということも確認しないといけないと思うんですよ。

検討委員会ではそうだったかもしれないけど、じゃあ、それが地域の本当の要望なのか、地域の課題としてこれはやったほうがいいねという、ある程度の合意が図られているものなのかということの問いも生まれるというふうには思っています。

それから、第２段階のおおさわコモンズの施設整備というのは、じゃあ、学校のことだということで理解しました。

それと、公共施設の跡地利用が第２段階以降になっているというのは、これは当然のことであって、もともとそうですね。ただし、特に羽沢小学校については、羽沢小を移転する理由づけの１つとして、商業施設の誘致ということを市は掲げていたわけです。そうすると、地域の中では商業施設が欲しいと、だから学校移転してほしいという意見も当然あって、それは私のところでも承知しています。

[速報版]

そういう立場の人たちからすると、商業施設が来るのかどうかも怪しくなるというようなことなら、このまちづくり全体への思いや、感じ方も変わってくると思うんですが、商業施設誘致も一旦、当面、不透明だということでお考えですか。その辺の検討はされたんでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

学校が移転した後の跡地につきましての考え方も、現時点では、基本構想で掲げている内容を維持していくということにしておりますので、今後の検討の中で引き続き取り組んでいきたいと思っております。

○委員（前田まいさん） だけど、相当スケジュールがずれるということと併せて、段階的にやる中で、さらに後方に下がったというふうに思います。そうすると、私もこれまで言ってきましたけど、先に多磨駅近くの基地跡地の商業施設ができますよ。恐らくもう数年でできると思います。ここからは、三井不動産だから早いと思います。

そうしたら、本当にこの要求が地域で生まれてくるのかということも出てくると思っています。私は、だとすれば、多磨駅までの移動支援をすればいいのではないかというふうに思っています。

次、行きます。整備計画を段階的に作成するというのは、どういう意味になるんでしょうか。どういうやり方になるのか、お伺いします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

当初の整備計画というのは、おおさわコモンズを含む地域全体のところで、整備計画を一本でつくっていくという考え方で打ち出していたと思うんですけども、今回、段階的な取組ということで、第1段階で、考え方を第1段階に絞った形になりますので、それに基づいて今後整備計画をつくっていきますので、第1段階に特化した整備計画ということで、第2段階以降は、この資料にあります考え方の中では方向性なので、第1段階の整備計画の中には、具体的なものは含まれないという形で考えております。

○委員（前田まいさん） そうすると、第1段階の取組の間には、土地利用整備計画というのをつくらなくていいということにはならないんですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

第1段階を整備するに当たりまして、しっかり土地利用整備計画を策定して、進めていきたいというふうに考えております。

○委員（前田まいさん） そうすると、4.8ヘクタール全体は使わないとして、北側の敷地で2段階目には学校施設だと。それ以外のどこかの土地を使って、第1段階の取組を土地利用整備計画で示すという感じですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

第1段階で、具体的にどこをどういうふうにするというのは、まだこれからお示しすることになりますけれども、そういった内容を落とし込んだ土地利用整備計画をつくってきたいというふうに考えています。

○委員（前田まいさん） その段階にあるものを整備計画にする必要ってあるんでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

第1段階の整備に関しまして、しっかりこの場所で、こういった機能を、こういう配置でといったところを検討して、それをしっかりと御報告をして、御意見を聞きながら進めていきたいと思っておりますので、そういったステップは必要なものというふうに考えております。

○委員（前田まいさん） そうすることで、市側にしたら一番メインの学校施設は第2段階になっている中で、私はこのまちづくりには反対ですけど、いざ第2段階に進むときに整合性が取れるようには

[速報版]

できるんでしょうか。その辺の整合性はどうか、お伺いします。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） 先ほど、視点の話がありましたけれども、この第1段階で防災・減災の取組を進めつつ、この第2段階以降のところで全体像の実現に向けた、つまり緊急対応方針にもありますけれども、全体像というものは変えずにまちづくりを進めていこうというようなものの考え方の中に、まちづくりを段階的に進めるうちの第1段階が防災・減災、そして、第2段階以降で全体像の実現なので、おおさわコモンズの施設整備、先ほど御質問があったような内容です。

この施設整備の中には、もちろんの先ほどの視点のお話の中にありました共有地の創出ですとか、天文台の森の継承、それから、子どもたちを取り巻く環境の整備、こうした視点を踏まえながらというようなところは、つまり第2段階の全体像を見据えつつ、第1段階を整備していくというようなところを想定をしながら進めていく必要があると思っています。

なので、この第1段階と、第2段階が別物というよりは、第2段階に進むステップの中の、その前に第1段階の整備がありますよというような形で、今回整理をさせていただいたと、そのような形になっています。

○委員（前田まいさん） そうすると、私の理解の範囲では、森の保全ぐらいしかできないんじゃないかと思うんですけど、学校整備までは拠点、箱物を造る予定は考えていらっしゃるんですか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） まず、この第1段階にある防災・減災の取組、それから、その表の後ろに書いてある、地域課題の解決につながる取組等の整理というようなところで、まずは防災・減災のことを地域の課題の1つというふうに、このまちづくりでもとと捉えていましたので、そのことを今後検討していくというような視点。

それと、今、箱物に関しては、地域課題の解決につながる取組の中に入ってくるかといったものについては、まだ全然否定するものでもありませんし、そこに何かをつくるというふうに決めているものでもないです。

○委員（前田まいさん） 私の意見ですが、今日、お伺いした限りでは、第1段階の段階においては、整備計画の策定は必要ないというふうに感じました。だから、段階的に策定するというのが本当に分からないです。

次、行きます、分からないので。市民への説明責任はどのように果たされるのでしょうか。私も分からないので、もう一回ちゃんと聞きたいのと、今日の報告では、受け取り方が人それぞれになりかねないというふうに思うんですよ。大変漠然としているというふうに思いますし、構想をベースにしているとは言いながら、その構想に掲げられた具体的な内容はあまり踏まえないということにも聞こえるので、何をイメージとして持てばいいのかというのが、本当に分からないんです。もう少し誤解を与えないように、検討内容を明らかにすべきだったのではないのでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

委員の御指摘のとおり、今の段階でいろいろ混乱を招きかねないというところは留意した上で、今後、中間報告で具体的な取組について報告を目指しておりますので、そういったところも踏まえて、今後、市民の方々に説明する内容であったり、時期であったり、慎重に検討していきたいと思っています。

○委員（前田まいさん） そうしたら、ぜひ12月の中間報告の辺りで説明会を開いていただきたいと思いますが、御所見をお伺いします。

[速報版]

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） このまちづくりの検討の進捗状況についての説明方法につきましては、これまでの周知、説明方法等を踏まえながら、丁寧な方法、手法、そのタイミングについてきっちり検証して、検討した上で行いたいというふうに考えております。

○委員（前田まいさん） 繰り返しになりますが、でも、ホームページを見れば、この基本構想が出ていて、整備計画に向けた基本的な考え方も出ているわけですよね。市民の皆さんは、まちづくりを考えるときには、それをベースにしてしまいますよ。だけど、今度は、その視点は生かすけど、それより具体は分かりませんということになってしまっているんで、じゃあ、どうするんだということはきちんと市民に説明する必要があるというふうに思います。

それから、天文台との協定の関係はどうなるんでしょうか。学校整備を後にして、ほかの課題から段階的に進めるということについては、天文台との合意は得られているんですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん） 天文台さんとも、緊急対応方針を踏まえて事業の内容を見直すことももちろんそうですけれども、今回、段階的にこういった整備をして進めていくといったことにつきましても、御説明をして、御理解をいただいているところでございます。

○委員（前田まいさん） とすると、市は定期借地の方向で考えていらっしゃるって、天文台ともその方向で交渉されていると思いますけれども、定期借地契約に向けた交渉準備はどういう状況にあるのか、お伺いします。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん） 定借の具体的な協議につきましては、内容、まだ具体的に、まず第Ⅰ段階でこういうふうに使わせてもらいたいとか、まだそういったところの協議はこれからなりますので、その協議と並行して、その定期借地契約についても併せて協議をしていきたいと思っております。

○委員（前田まいさん） 天文台にとってみると、その間、収入が得られないということになりますが、そのことについても了解いただいているんですか。契約が結べるのがいつになるかも分からないという状況についても、天文台は理解されているんですか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん） その部分についても御理解をいただいております。

○委員（前田まいさん） 分かりました。やっぱり学校移転をやめて、地域にとってのコモンズというのが何なのか、もし天文台の土地を活用できるのであれば、大沢地域で何ができるのか、そこを問い直すときに来ているのではないかというふうに思っています。なので、市民の皆さんへの説明と意見交換の場が必要だというふうに思っています。

緊急対応方針から、もう10か月たちますけれども、正直このような方向性しか示されないということを見ると、お手上げ状態なのではないかなと。先ほどもありました駅前再開発のことを考えれば、学校統廃合の白紙撤回をきちんと表明すべきではないかと思いますが、もう一度、御所見をお伺いして終わります。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 現時点でおきましては、将来像、この事業の目的、目標についての変更は考えておりません。

[速報版]

○委員（前田まいさん） 繰り返しになりますが、大分暗礁に乗り上げているというふうに言わざるを得ないと思います。逆に、学校統廃合をやめたほうが、第１段階の取組もスピード感を持って進められると思うんですよ。学校を移転しようとするから、それが足かせになっちゃっているようにしか、私には思えないので、ぜひ早期にこの学校統廃合の計画を白紙撤回していただくよう求めて、質問を終わります。ありがとうございます。

○委員（石井れいこさん） よろしくお願ひします。先ほど、中間報告のお話がありましたけれども、具体的に、誰に対して、どういった予定で報告をされるのかというのを、もう一度伺えればと思います。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
資料にある１２月の中間報告というのは、もちろんこの特別委員会での御報告をまず念頭に置いています。そこでの議論も経て、繰り返しになりますが、市民への説明であったり、そこも含めて検討した上で実施していきたいと思っています。

○委員（石井れいこさん） 分かりました。では、先に市民ではなくて、委員会に出してから、１２月中に市民の方——市民と言っても広いんですけども、全体的に市民の意見を聞くということは考えていらっしゃるでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
１２月と書いたのは、もちろん特別委員会を想定してなので、その後、１２月中といいますか、検討状況であったり、御意見を踏まえて、順次そういった形で進めたいと思っています。

○委員（石井れいこさん） これ、結構大きな話になってくると思うので、市民の方にも広報とかでもお伝えしていることで、大きな変換だと思うので、これは広く市民全体の方にお知らせをして、御意見をいただく機会を設けるべきだと考えますが、いかがでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
そういった視点も踏まえて検討を進めてまいりたいと思っています。

○委員（石井れいこさん） よろしくお願ひします。今までは、大沢の地域だけということだったと思うんですけども、市民の税金が使われているので、ぜひとも市民全体で話し合いをお願いできればと思います。

あと、この第１段階、第２段階というふうにありました。第２段階以降というのがあるんですね。以降は、これは何段階まであって、いつまでの期間に何段階まで続いていくのかというのを、ちょっと伺えればと思います。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
まず、基本構想に、スケジュールの関係で、段階という表現ではなくて、第１期、第２期、第３期という形で、スケジュールを記載させていただいております。第１期のところがおおさわコモンズになっておりまして、今回、おおさわコモンズの中でも学校施設の関係の整備ではなく、防災・減災に寄与するような取組を——具体的なところは今回申し上げられませんが、それを第１段階。第２段階に分けた学校施設、さらに、そういったところの跡地利用であったり、そういったところを含めて第２段階以降という形にしています。なので、第２段階以降が、現時点で、じゃあ、第２段階で一発なのかというと、そこはまだ検討が熟していないというところがございます。

あと、第２段階以降が、いつ、どのぐらいの時期になるのかということも、今後、検討であったり、そういったところを深めて、順次報告していきたいと思っていますので、そういった形の状況でございます。

[速報版]

○委員（石井れいこさん） 分かりました。資料Ⅰの実現可能なプランへ転換するためにというふうにありました。実現可能なものと、実現不可能なものがイメージができなくて、一体どういったものを実現可能とイメージしていて、どういったものが不可能なのか、予算はこれからなのかもしれないですけど、このぐらいの規模感なのかというのが見えないので、もうちょっと教えてほしいんですが。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

単純にこの天文台の取組だけの事業費が幾ら以上なら不可能、幾ら以下なら可能ということだけではなくて、ほかのプロジェクトとの重なり具合ですとか、そういったところでも、実現ができる、できないというところが出てきますので、そういったことがありますので、庁内での調整をしながら検討を進めていくといったことにしているところです。

○委員（石井れいこさん） 先ほども、駅前再開発の話があって、それとの兼ね合いでいろいろ検討されていくというふうに認識していますけれども、それは合っていますかね。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

駅前再開発に限らず、庁舎ですとか、学校施設建て替えとか、いろいろ事業費がかかるものはありますので、そういったところをにらみながら検討を進めていくということでございます。

○委員（石井れいこさん） 分かりました。このまちづくりのことで学校が関わっちゃっているんです。学校って、修繕があったり、建て替えの時期があったりすると思うんですけども、その計画には入っていないところでの学校の移転という計画になってしまっていて、子どもたちを振り回しているように捉えられる、受け取りかねないというふうに考えます。

社会的な影響があって、それによって子どもたちに説明していたものとはまた変わってきたりとかするという、1回夢を思い描いたものがまた違つてと、かなり振り回されているのではないかなというふうに考えるので、この学校というものは切り離して考えるべきではないのかというふうに考えております。

細かく、小さい規模で取りかかっていると、これからの物価高騰だったり、社会情勢というのは、本当に読めないと思うんです。なので一番最初、何をしなければいけないのかというところから始めていくのであれば、浸水被害、水害の部分ですよね。なので、まず決算のところでも止水板が設置されているというふうにおっしゃっていましたが、現状、どこに止水板を置いて、今どういうふうに対応されているのか、伺います。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） まず、洪水浸水想定区域内に立地する羽沢小学校の課題というのは、解決していかなければならない課題だというふうに思っております。だからこそ、今回、まちづくりの目標である天文台の森を次世代につなぐ学校を核とした新たな地域づくりの実現に向けて取組を進めるという、整備の全体像の位置については引き続き持っているということで、今回も御報告をさせていただいているものでございます。

今御質問いただきました羽沢小学校の止水板ですけれども、もともと止水板、止水壁の設置等については、浸水リスクを低減する方策ということでは考えております。一方で、それを解消するものではないところですが、この間、議会での議論も踏まえまして、リスクを低減する目的を持って、臨時的対策として、令和7年度に羽沢小学校に止水板の設置を行ったという状況でございます。

具体的には、校舎外にありますキュービクル、受変電設備の防水としての止水板の設置、併せて体育館北側の出入口の浸水防止としての置型の止水板を設置したという状況でございます。

[速報版]

○委員（石井れいこさん） 道路側というか、天文台の坂のほうには設置はしていないですか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） あくまで令和7年度末、臨時的対応として設置を検討したというものでございますので、今御指摘の点については、設置をしておりません。

○委員（石井れいこさん） 精いっぱい対応している姿を見たいなというふうに思うんです。止水板を全部やってみました、そして何度も言われていると思うんですけども、高床式に設置するとか、そういうできるところから始めていくべきだというふうに考えるんですけども、そこも何度も言いますけれども、検討はされないのでしょうか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） 今回の止水板の設置ということで、1階部分が浸水した場合においても、一定の電源確保等の可能性、また、教育活動の早期再開の可能性というところの担保については、対策を図ったというような認識でございます。

一方、防災・減災の観点というところでは、根本的には洪水浸水想定区域外への移転が望ましいということに変わりはないと思っております、今回のまちづくりの全体像については維持しながら、引き続き、必要な対応については検討を進めてまいりたいと考えております。

○委員（石井れいこさん） ですけども、高床がいいのではないかとというふうに思いますし、防災・減災のところで、福祉避難所も足りないという話があると思うんですけども、全体的にもっと考えなきゃいけないところがあるのかなと。ここばかりにお金をかけるのではなくて、できるところ、細かいところで予算を使っていかないと、全体の人たちを助けていくことというのは対応ができないのではないかと考えているので、移転というのは1回外したほうがいいというふうに考えます。私も、白紙に戻すべきではないのかなというふうに考えます。

国立天文台の話なんですけど、先ほど、はっきりした答弁をもらえなかったんですが、調布のF C東京さんが国有地を使ってグラウンドを造るんですけども、ここの土地、敷地の全体のうち国から3分の1を購入して、3分の2が無償で借受けてできるということで、公園を造るというふうに三鷹市がやると、そういうスキームを使ってできるのではないかと。防災・減災の公園づくりという案もあると思うんですけども、その点はいかがでしょうか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 調布市さんの件につきましては、詳細は把握しておりません。確かに公園事業として、都市計画公園、都市公園事業として行う事業については、市内の公園において補助金を活用し、整備を行った事例はたくさんあります。

ただ、当該事業については、現在、都市公園とか、都市計画公園に位置づけて補助金を獲得するようなスキームは、現在のところ考えておりません。

○委員（石井れいこさん） 考えていないのは分かっていて聞いているんですけども、そもそものやり直しということで提案をさせていただいております。学校を一緒に統廃合していくという話もそうですし、そこは人権の問題だというのも、ずっと伊沢さんのときから指摘をさせていただいております。そののちゃんとした検証もないまま進めていこうというところが、横暴ではないかということを、私たちの会派は言っているわけです。

その資料も出てこないんですよ。こういったことが人々にとって人権侵害には当たらないとか、そういうことも出してください。資料を出してくださいというふうに申し上げております。環境破壊にも

[速報版]

ならないんだということも、ちゃんとエビデンスを持って出してくださいと言っても、出してこないわけでございますけれども、この第1段階のときに、そういった資料というのは出てくる予定はあるんでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

現時点で、第1段階の整備は具体的にこういったものをやるというのがまだ明確に決まっておりませんので、どういうお示しの仕方になるかというのは、そこも含めて今後の検討になると思います。

○委員（石井れいこさん）　　今までこの委員会をやっている意味がないというか、私たち方がただ、おかしいのではないですかとか、エビデンスはないんですかと言っても、右から左になってしまって進められてしまうと、この委員会、ただ聞くだけの話になって、私たちがただ言いたいことを言うだけの委員会になってしまうと思います。エビデンスというのは出していかないと、次の話に進まないで、無視されているというふうに、こっちは受け取ってしまいますので、その点、ちゃんとお互いにいい議論ができるように、資料を提出し合いながら検討していかないと税金の無駄遣いになってしまいますので、ぜひとも、そこはちゃんと議論を深めるためにも、今まで要求しているもののエビデンスは出してください。12月、待っておりますので、よろしくお願いします。

　　以上で、白紙撤回を求めて、そして、次に12月あるのであれば、そこは資料を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員（山田さとみさん）　　お願いします。まず、この資料1の改定のスケジュールについて伺います。第1段階と第2段階というお話がありましたけれども、この基本的な考え方（改定）の中間報告には、第1段階と第2段階、合わせた構想が載る予定なんでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）

12月の中間報告におきましては、基本的には第1段階の具体的な取組の内容というものを想定しております。第2段階においては、基本的に考え方そのものの中では方向性にとどめるような形になるので、中間報告の中身に盛り込まれるというのは、今のところ想定していません。

○委員（山田さとみさん）　　よろしくお願いします。ホームページで、これまで市民の方にお伝えしてきた内容から変わってくると思うんです。第1段階だけを詳細にお伝えするものになると、先ほど齊藤部長が御答弁されたような内容というのが伝わりづらいのかなというふうに思っています。それだと、市の考え方が伝わらない。

　　というのは、これまでの基本構想があって、その構想自体は変わらないんだと。ただ、第1段階はこれをやってと。つまり、スケジュールが変わりますよということなんだと思うんですよね。例えば、この基本構想の16ページに、御意見をいただきながら計画的に進めますというページがあるんですけども、このスケジュールが変わりますということだと思うんですよ、市が言いたいことって。

　　だから、第1段階だけ特出ししてしまうと、誤解されてしまうんじゃないかなというふうに思うんです。なので、全体の中で、第1段階はここ、第2段階は、ざっくりだけれども、これをやるみたいなどころはお伝えしていかないと、市民が混乱するんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

今、御指摘いただいた御意見、まさにそのとおりだと思いますので、市民の皆様へ御説明、御報告する際には、そういったところをしっかりと工夫しながらお示ししていきたいと思っています。

○委員（山田さとみさん）　　よろしくお願いします。学校についても、児童の安全が第一だというふ

[速報版]

うに進めてきたこの計画で、それが後回しにされているみたいに思えてしまうのも、きっと市の考えていることとは違うことだと思いますし、商業施設を楽しみにされていた方も、あれ、なくなっちゃうのかなと思ってしまうかもしれないです。そこは、コミュニケーション不足になってしまうというふうに思いますので、そこは意を用いていただきたいというふうに思います。

次になんですけれども、第2段階に行ってしまう施設整備、学校の施設なんですけれども、その間も、ゲリラ豪雨とか、すごく頻発していますよね、最近も。防災安全部もすごく大変だと思うんですけれども。そういった中で、子どもたちのこと、後回しにされちゃったなというふうに思われないうために、その羽沢小の防災はかなり強化していただきたいなというふうに思っています。止水板の話もありましたけれども、具体的に浸水してきちゃったときに、どういうふうに子どもたちの命を守っていくのかというの、併せて強化していく必要があると思います。

以前、私、別の委員会、まちづくり環境委員会でこういったお話をさせていただいたんですけれども、改めて申し上げます。避難確保計画の見直しをされていると思うんですよ。それを、しっかりといま一度確認してやっていただくとか、あとは実効的な水害に関する避難訓練ですとか、学校施設内の浸水対策も強化していただきたいと思いますし、変電設備の浸水対策もそのとき——2021年なので結構昔なんですけど、してくださるということなので、いろいろと意を用いてやってくださっていると思うんですけれども、さらなる防水対策と、子どもたちの命を守る具体的なアクションというのはやっていただきたいと思うんですが、今やっていらっしゃる、今後取り組む予定のあることについて伺います。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） 委員御指摘のとおり、洪水浸水想定区域に立地する羽沢小学校、課題解決が重要だというふうに考えております。そのため、先ほど申し上げたとおり、止水板についても、言わば緊急的、臨時的に設置のほうは進めさせていただいたという状況がございます。

また、今お話のありました避難行動の部分なんですけれども、おおさわ学園で野川増水時の避難行動等につきましては、教育委員会のほうでも基本的な対応についてを全市にお示ししているんですけれども、また都教委の安全教育プログラム等の指針に基づきまして、危機管理マニュアルというのをここで作成をしております。そうしたマニュアルに基づいて、避難訓練というのを実施をしているところでございます。

具体的に羽沢小学校では、急に野川が増水したときの対応ということで、4階のほうに避難するような避難訓練というの、重ねてきてもらっているところでございます。引き続き、各校の危機管理マニュアルということも、また具体的な行動指針でしっかり更新をするなど、学校とも十分連携をしながら、子どもたちの安全確保にしっかり取り組んでまいりたいと思います。

○委員（山田さとみさん） ありがとうございます。安心しましたが、やっぱり地域の皆さんも心配されていると思いますので、そうした避難行動についても、これまで訓練を重ねてきて、これからもしっかりやっていくというようなことも、ぜひ地域の皆さんにもお伝えいただいて、必要に応じて第2弾にというか、高台に移転するまでの間の子どもたちの命を守る、ソフト・ハード面を含めて、ぜひしっかりやっていただきたいというふうに思います。

次に、スーパーなどの買物環境の充実というのは、これまでは羽沢小の跡を整備するということだったんですけれども、少し時間が空いてしまうということです。第2弾についても決まっていないう

[速報版]

ことだったんです。楽しみにしていってくださった方に対して、お買物環境の充実という点については、どのように対応されていかれるのでしょうか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん）　買物環境につきましては、地域、この事業を進める中でたくさんお声をいただいております。そうした期待に、今回、少しお時間をいただくことになりました。大変申し訳ないというふうな気持ちはあります。

ただ、それをこの事業を途中でやめるわけではないので、この目標というか、道筋をしっかりと地域の方にも説明した上で御理解をいただき、この事業を推進していきたいというふうに考えております。

○委員（山田さとみさん）　分かりました。この基本構想はそのままのアイデアで進めるということは伝わっているんですが、市民に伝えるちゃんとした資料というのは、この12月に出てくる基本的な考え方（改定）の中間報告というものになると思います。じゃあ、第2弾、いつになるのという疑問が湧いてくると思うんですが、これについては、大体このくらいとか、そういうざっくりした展望みたいなものというのは示されるのでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（仲達友美さん）
検討はしてまいりたいとは思いますが、現時点ではまだ何とも言えない、難しいところがあるかなと思います。

○委員（山田さとみさん）　混乱を招いてしまうので、あまり不確かな情報は載せるべきではないと思うんですけれども、もし載せられるんだったら、載せていただきたいなということでございます。引き続き、市民の安全と、今まで市民と対話を重ねてきたわけですから、これからも一緒にまちづくりをしていただく市民の皆さんですので、そごがないように、この中間報告についてはしっかりつくっていただきたいなというふうに申し上げて、私からの質問を終わります。

○委員（蛭澤征剛さん）　よろしく願いいたします。まず、冒頭、確認したいことは、緊急対応方針では、事業の枠組みや進め方——ここだと、多分、実現可能なプランという表現の仕方になるのかもかもしれませんが、段階的な整備改修というふうになっていたと思います。その要因としては、財政面からの見直しだったと思いますが、今回のこの改定の方向性というのは、いわゆる今までの規模、枠組みは変えずに、段階的に整備するという選択肢を取ったよという理解で合っていますでしょうか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん）　委員さん、おっしゃるように、この事業の枠組み、それはおおさわ commons の全体像であるとか、エリア全体のまちづくりについての目標は変えず、目標実現に向けて段階的に進めるということで間違いありません。

○委員（蛭澤征剛さん）　重ね重ねですが、もう一回確認させてください。先ほど、前田委員から手法の検討ってありましたけども、事業費をどうすれば抑えられるかというような話もあったと思います。じゃあ、事業費を抑えるようなことはせずに、この規模で段階的にやっていくぞということでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）
全体の事業費も抑えつつ、段階的な整備も行っていくという形で考えております。

○委員（蛭澤征剛さん）　抑えつつですね、分かりました。私もこれを見たときに、全然進んでいないんじゃないのかなという、正直な感想を抱きました。失礼な言い方かもしれませんが、裏では

[速報版]

いろいろなプランの検討をされているというような話を伺っていますが、実際こうやって文章になると、なかなか進展していないのかなと思いました。進展していなくはないんですけど、こうやって段階的にやりますということが決まったということで。

ただ、何でもここまで時間を要したのかという説明はしていただきたいなと思います。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 緊急対応方針では、段階的な整備を検討することとなっておることは承知しておりますし、この間、他の事業の検討の進捗状況などを踏まえながら、天文台周辺のまちづくりにおいても、改めて全体を想定し直し、その全体像の見直しの方向性——先ほどもお話ししましたが、その方向性の検討であるとか、また、段階的に進めるための現実的な規模や、その内容についてはどうか。また、天文台さんへの方針転換への御説明なども繰り返し行ってきた、そういった検討を進めております。

今回、この事業単体での再検討とはいかないため、他の事業とのプロジェクトの再調整も含め、時間を要してしまっているということは事実であります。そのため、現時点でお示しできる内容としては、今回お示した第1段階の取組、第2段階以降の方向性までを今回御説明することになりましたが、今後、事業の検討の進捗を見ながら、適宜、具体的な内容をスピード感を持ってしっかり取組を進めたいというふうには考えております。

○委員（蛭澤征剛さん） ありがとうございます。我々の見えないところで、いろいろな調整があるんだろうなと。それが全て報告できるものではないというのも理解はしているんですけども、これだけなかなか進まない状況だと、賛成派の方も、反対派の方も、もやもやするところであると思うんです。

そこで、何度か出てくるキーワードについては、もやっとしている部分ははっきりさせていただきたいなと思います。他の優先プロジェクトとの整合性を図りながらというお話が何度も出てきていると思います。これは、じゃあ、具体的に何なのかということを皆さんが共有できるような形で、私はこれ、財源と時期なんじゃないのかなと思っているんです。他の優先プロジェクトに係る財源、そして、他の優先プロジェクトが進むというか、駅前だったら駅前、いつから、こうなったら事業が進むとかいう、そういう時期、それに振り回されているんじゃないのかなと思っているんです。

この辺、他の優先プロジェクトとの兼ね合いというのは、財源と時期のことという認識でもよろしいでしょうか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 先ほどの委員さんの答えと重なるところはありますが、今回、全体の事業との調整の部分について、天文台事務局として、全体像として答えるということはちょっと難しいんです。しかし、現在の社会情勢を踏まえ、これらの事業を同時に並行して実現を目指すというのは難しいというのは、共通の考えであります。

大きな視点として、財源の見通しと次期の事業の実施時期、また事業費の支出時期、そういったことが再調整の大きな視点になっていることは間違いありません。

以上です。

○委員（蛭澤征剛さん） ありがとうございます。これで皆さん、少しクリアになったかなと思います。同時期には難しいって、先ほども答弁がありましたけれども、それは、つまりは財源の問題であるというふうなことになると思います。

[速報版]

そこで、一応確認はしたいんですけども、そうであるならば、今後のこの改定スケジュールに関してですが、12月に中間報告が本当に出てくるのかと。そして、来年、令和9年3月に本当に基本的な考え方の改定が行われるのかということも、ちょっと不透明な状況になってくるのではないのかなと危惧しております。

これは、今年度の重点事業ではあるので、ここを目標としていると思うんですけども、このスケジュール感、後ろ倒しになることもあるというような感じで思っているんですけども、この辺りのことはいかがでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

現時点では、今年度中の改定を目指しておりますが、あくまでも予定でございますし、天文台との協議も進めていながらということになりますので、現時点では目指しているといったところで御理解いただければと思います。

○委員（蛭澤征剛さん） 分かりました。ということは、不透明な状況が今後も続くのかなというふうな認識でいたいと思います。

それから、別紙1のほうなんですけれども、先ほども一定、ここはどうなんですかというような問いがいろいろあったんですが、私も先ほどからずっと聞いているんですけど、どうもしっくり来ないことが1つあります。改訂版の表のほう、第1段階に、最優先で進める防災・減災の取組、先ほどの答弁を聞いても、私も全然分からなかったんです。聞き方を変えてみたいと思うんですけども、これ、土地利用整備計画策定に向けた、昨年9月につくった基本的な考え方、これをつくるということ、昨年9月の改定をするということですよ。

これの中に、防災・減災の取組というのはどこにあるのかなというのが気になったんです。この基本的な考え方ではなくても、基本構想でもいいんですけども、最優先で進める防災・減災の取組というのは、これらの資料の中の大体どの辺りに当てはまるのかというのを、ちょっとお伺いしたいと思います。

この整備計画に向けた考え方のほうには、防災・減災のところは、具体的なイメージできるものがあり見つからなくて、基本構想のほうを見ると、9ページに防災専用倉庫の設置だとか、車両の避難のことだとか、それから震災時の一時避難場所とか、啓発ポスターを作るとか、野川周辺の公共施設等での避難先の確保とか、いろいろ書かれているんですけども。

私がイメージするとしたら、ここの基本構想に書かれている、この辺りなのかなというところなんですけど、この資料でいうと、どの辺りが防災・減災の取組に当たるのかというのを、教えていただきたいと思います。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局次長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 土地利用整備計画策定に向けた基本的な考え方につきましては、基本構想を踏まえ、大前提は基本構想に防災の視点は記載しておりますが、向けた考え方については、学校移転がそもそも大きな防災の視点での取組ということで、改めてここで防災・減災の取組というワードで御紹介しているわけではありません。

ただ、その中で防災・減災の視点を切り取った場合に、学校移転が今回、第2段階に移行という考えになりますので、防災・減災の考え方は早期に改めて、この改訂版では明記していこうという考えでありますので、どの部分が早期に防災・減災の取組かと言われると、記載については、具体的には記載さ

[速報版]

れておりません。

○委員（蛭澤征剛さん） ちょっと分からないんですよ。これ、じゃあ、基本構想にも示されていなかった取組を何かやると。それが防災・減災の学校の整備につながっていくというようなことなんでしょうか。これが何なのかが、分からないんですよ。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） まず、この天文台のまちづくりの大きな方向性として、今御質問があった防災・減災の取組、おおさわ commons の創出、次世代へつなぐ天文台の森、子どもを取り巻く環境の整備といった教育のこと、この4つが、天文台のまちづくりはこれまでずっと御説明している、まちづくりの方向性の4つの柱です。

昨今の状況とかも見つつ、防災・減災というのは、この天文台しかりですけれども、まちづくりの共通したテーマというのが、今三鷹市で行っている防災・減災のまちづくりです。この防災・減災というものを、今、最優先に進めていかなきゃいけないというようなところと、今回、段階的な取組に転換をしていこうといったときにも、土地利用基本構想というのは、これは、何かを変えろというものではなくて、土地利用基本構想で示す将来像は維持していくんだと、実現可能性を高めるために段階的な取組に転換していくんです。

その転換をしていくに当たって、早期に着手できる取組から順々に進めていくというものの中で、今回、第1段階というのは、先ほど申し上げた地域の1つの課題である防災・減災の取組というのを最優先に進めることにしましたというような、そういう整理で御理解いただければと思います。

○委員（蛭澤征剛さん） それは理解しているんです。ただ、その中身が何なのかなということを、多分先ほど前田さんも質問していたと思うんですけど、検討中だということであれば、私が問うたのは、この土地利用基本構想に示されている大体どの辺りの部分が第1段階として進められるようなことなんでしょうかというような質問だったんですけども、要はまだ中身を検討中ということなんでしょうか。

具体的に何なのだろうかなと、そこをすっきりさせたかったんです。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） 具体的なところはまだお示しはできませんけれども、ここの地域の課題である防災・減災といったところを含めながら、基本構想の防災・減災のページにあるような視点というのは持っています。ここが、やはり将来像を見れば、それぞれの防災の取組を進めていけないといけないとは思いますが、その段まで全部はできないかもしれないですけども、この第1段階の段階でできる防災の取組とは何だろうというのを、今後というよりも、今検討しているというような段階にはなっています。

○委員（蛭澤征剛さん） 検討中ということであれば、それで納得します。防災・減災に関して言うと、目玉が羽沢小を移転させて防災拠点にするというような趣旨の答弁、結構多いですけども、どうしても理解できないのが、いつも避難所を開設していますよね。羽沢小があそこにあるのが、なかろうが、高台に避難するんですよ。七中か、もしくは大沢台か、もう避難する場所があるんですよ。だったら、そこを整備するのが筋じゃないですかというふうに思うんです。

そうすると、大体ずっとこの議論、続いていますけど、子どもたちの安全が、子どもたちの安全がというような答弁返ってくるんですけども、この間、本会議の答弁では、子どもたちは垂直避難をしますという話でした。防災マップを見ても、6時間から、長くても9時間の浸水なんですよ。そうすると、これ、理屈で考えれば、なぜ移転するのかというのが、はっきり言って成り立たないような気がするんですよ。

[速報版]

だから、この第1段階、第2段階というような形で、防災・減災の取組を最優先で考えるならば、私、先ほど基本構想に書いているところを読み上げましたけども、防災専用倉庫の設置なんてすぐできるわけじゃないですか。車両避難の場所のスペースをつくるとか、すぐ可能なわけじゃないですか。だから、答弁内容と、やろうとしていることに矛盾があるんじゃないのかなというふうに、私は思っています。ただ、お答えするのが難しいと思いますし、同じような答えが返ってくると思うので、これは私の意見ということで、止めておきたいと思います。

最後に、定期借地の話。先ほども出てきました。具体的な協議はこれからということでしたが、そもそもこれは財源的に厳しいから、段階的に取り組むとかいうような、同時期にほかのプロジェクトと進めるのが難しいからと。やっぱり、これ、財源の問題が絡んでいますよね。そうであるのに、これ、定期借地で学校を造ることが、将来的な財政運営として正しいやり方なんでしょうか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局長（高松真也さん） 定期借地方式ということを考えているというようなことで、これまでもお話し申し上げてきています。この定期借地方式については、国立天文台が売却ではなく、定期借地方式を御希望されているということが理由というふうに思います。

現在、また国立天文台とも協議を進めながら、具体的な内容については、今後また協議をしていくということになりますけれども、定期借地自体、学校用地をこの方式で利用したという事例、多くはありませんけれども、実際の事例もございます。こうした事例も参考にしながら、協議を引き続き行っていくというものと認識しております。

○委員（蛭澤征剛さん） これ、そもそも天文台が財政難だから、あの土地を売りたいかったわけですよね。でも、それが天文台の都合と言ってはあれかもしれないけど、天文台さんから定期借地にしてくれて言われたから、やりますということ。今の話を聞いていると、その構図が、税金で天文台を支援しているようにも見えなくはない。

だから、先ほど、私、意見で止めましたけれども、結局羽沢小学校、移転しなくてもいいじゃないですかと、私はどう考えても理屈で考えるとそうなんです。だって、あろうが、なかろうが、上に逃げるんですから。そこにわざわざ公共物を造るわけですよね。天文台が定期借地といった時点で、私はもうこれは終わったんじゃないかなと思ったんです。だって、あそこを売られないために何とかしようと、市がストップをかけたんじゃないですかと。

それが突然、途中から定期借地に変わりましたということで、えっ、何でと思ったわけなんですけれども。その辺りが、いろんなところに矛盾を感じる進め方であったり、説明であったりするんで、私はこうやっていろいろ質問しているわけなんですけれども。残念ですが、そうは言っても進んでいくのかなと。

ただ、この土地利用整備計画策定時に、先ほど、どれぐらいの土地を利用するか分からないというお話でした。土地利用整備計画を策定するということは、恐らくある程度利用する土地が決まってくると思うんです。その際には、天文台さんとどれぐらいの金額で借りるのかということは、協議ができるものなんでしょうか。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

まず、第1段階の土地利用整備計画をこれから進めていくことになりますけれども、その土地利用整備計画の中では、事業費ですとか、スケジュールといったところも含めて、天文台と協議を重ねたその結果を盛り込んで、まとめていきたいというふうに考えております。

[速報版]

○委員（蛭澤征剛さん） 分かりました。ありがとうございます。

終わります。

○委員（おばた和仁さん） 各委員から、様々な視点から質問をしていただきましたけれども、副委員長として、幾つかその中で確認をしておきたい点が出ましたので、質問をさせていただきます。

まず第Ⅰに、資料Ⅰに、冒頭、現在の社会経済情勢の中で実現可能なプランへと転換するためにというふうに書かれています。実現可能なプランへ転換すると、段階的に整備を進める構成に見直す必要があるということだと思いますけれども、この話というのは、そもそも本丸は第Ⅱ段階の実現だと思うんですけれども、この段階的に進めることによって、第Ⅱ段階の羽沢小移転を含めた様々なおおさわ commons が実現するということに、どういう理由からつながっていくのかについて、改めて確認をしたいと思います。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） まず、昨年度の緊急対応方針を踏まえて、この天文台の取組についても再検討をすることになりましたというのは、昨年度と、前回の特別委員会でも、そういった説明をこの間させていただいています。再検討に当たっては、様々な、これまで答弁させていただいたような形でいろいろ検討していくことも多くあります。将来像は変えないで、維持をしつつ、まちづくりを進めていきたいんですけれども、その検討にはまだ一定の時間を要するだろうというふうには考えています。

ただ、その中でも、地域の課題というものは、じゃあ、そのままいいんでしょうかというようなこともありますので、段階的にというような形で、今回、第Ⅰ段階は、防災・減災の取組といったことについて取組を進めていくというような方向性を、お示しをさせていただきました。先ほどの委員さんのところでもお答えしましたが、第Ⅰ段階の防災・減災の取組について何をするのかというのは、今検討中なので、もうちょっとお時間をくださいというのが現状です。

ただ、このまちづくり全体というものは、防災もそうですし、教育とか、緑とか、共有地というところは変えずに行きたいという市の方向性は変わっておりませんので、そこまでの段階のステップが1個増えたというような形で、今取組を進めているというようなところで、まちづくりを検討進めているところでございます。

○委員（おばた和仁さん） 今の御答弁は、実現可能なプランへの転換ということが、なぜ、この段階的なことをすることによって可能なのかということに対して、お答えになっていないというふうに思います。要は、できることからするというのが第Ⅰ段階、第Ⅱ段階は、結構お金がかかるから、これは先ほど来の話によれば、三鷹駅前再開発とか、場合によっては庁舎建て替えというのも入ってくるんだと思いますけれども、こういったところで幾らお金がかかるのか、財源が必要となるのかということ踏まえた上で進めていくという視点もあるのではないかと思います。

そうだとすると、財源の問題ということなので、単に後ろにただけで、じゃあ、これ、本当に実現するのかということについて、そのところはもうどういうふうにお考えになっているのかということをお聞きしたいということなんです。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） 実現可能なプランということを目指して、今検討しているところでありますから、それがどういう形であれば、この基本構想に示した視点を踏まえながら、実現が可能なのかっていったところをお示しはしたいんですけれども、その検討までまだ至っていないというのが今の現状ですので、そこをそのままに検討中だから、その間何

[速報版]

もしないんじゃないかと、今副委員長がおっしゃっていたような形で、まず第1弾として、できる範囲のところで、早期にできるものについては手をつけていきましょうよと。

ただ、全体像をお示しするには、まだちょっと時間がかかるので、実現可能なプランについては、まだ検討の時間をいただきたいというのは、そういう状況でございます。

○委員（おばた和仁さん） その考え方は分かりました。その上で、第1段階の防災・減災の取組というのは、国立天文台の敷地に関わる部分が出てくるのか。要は借りるとか、そういうことをスタートするということに関わってくるのか、関わってこないのか。そこら辺は、今はどのように考えておられますか。

○都市再生部長・調整担当部長・三鷹駅前地区まちづくり推進本部事務局長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（池田啓起さん） 天文台敷地も含め、今検討を進めているところです。検討の状況によっては、先ほど言った、天文台さんとの定期借地権の話とか、もしくは、できるだけ費用をかけないでとなれば、天文台さんの協力であるとか、いろんな視点を持って、今検討を進めているところです。

○委員（おばた和仁さん） そうだとすると、できることから始めようということではありますが、天文台さんの土地を借りるところまで含めて第1段階で決めていくということになると、ある意味、かなり踏み込んだ市の財源を使っていくということにつながっていくと思うんです。先ほど来から、第2段階については、これから様々な財源問題も含めて検討した上で、その規模も含めて今後検討していくということですから、その実現可能性については、ある意味、100%実現できるかどうかという、そこはいろいろな不確定な要素も出てくると思うんです。

そうした段階で、天文台の敷地を借りていくということについては、やや踏み込み過ぎではないかという懸念がありますが、そこら辺はいかがですか。

○国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局理事（齊藤大輔さん） その第1段階のときに、多くの土地を借りて、市の財政支出が多くなるというのはあまり好ましくないだろうというふうには思っています。なので、まだ現状では、今回の天文台の北側ゾーンの中でのまちづくりの一環での第1段階目の防災・減災の取組を、今考えていますので、ある程度、土地を使わせていただくというのはあり得る話です。

ただ、そのときに、土地を借りて、賃借料を払って何かをするのかといったところも、その検討には必要になってきますから、じゃあ、その範囲がどのぐらいなのかということと、何ができるのか、何がしたいのかという考えはセットになってくると思いますので、こういうものをやるから、このぐらいの広さが必要ですかとか、先ほどの委員さんの御質問にもありましたけど、じゃあ、建物を建てるんですかとかというところも、検討していく過程では出てくる話だと思いますので。

そのときに、この第2段階以降の整備までの間、土地を借りるのか、先ほど定借の話もありましたけれども、どういう形で進めるのかといった検討も、併せてやっていくことになるんじゃないかなというふうには思います。

○委員（おばた和仁さん） ありがとうございます。市の考え方は分かりましたけれども、第2段階の実現については、かなり不確定的な要素もある中で、第1段階として、この防災・減災の取組、最優先に考えるという考え方自体は別に反対するものではないんですけれども、それに基づいて、天文台の敷地を借りていくということについて、それが後々、5年後か、10年後か、15年後、第2段階のレベ

[速報版]

ル感とか、いろいろな、そのときの三鷹市の状況とか、いろいろな問題を鑑みて検討していくということに、第2段階はなと思うんです。

それが変な意味で足かせになるといいますか、これだけ借りているから、やらなくちゃいけないみたいな変な形になってもいけないし、そこも重々踏まえて、この中間報告をいただけるということを期待したいと思います。

それから、最後に、定期借地権については、先ほど、天文台さんからの要請というふうなお話がありました。最終的にはそうだと思いますけれども、そもそも市長が定期借地権というやり方もあるよということをお話しされたというのは、以前の市長答弁でございます。そう考えたときに、この定期借地権というのは、私はこの借り方で土地を借りていく、大沢のまちづくりをしていくということについては、学校用地も含めて、そのところも含めて極めて重大な判断になってくるところだと思うんです。

にもかかわらず、ずっとこの定期借地権の問題については、まだ方向性が決まっていないという状況が続いております。ここは懸念するところで、学校の建物に関しては、今、長寿命化で80年間使うということが言われている中で、じゃあ、定期借地で大丈夫なのかということについては、市はしっかりと市民の皆さんにも説明する必要があるし、当然、これは真っ先に、天文台さんと詰めるべき内容ではないかというふうに思うんですが、これだけ時間がかかっている状況、理由について、説明をいただければと思います。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

天文台さんとの定期借地契約に向けた御相談というところは、こういった取組、検討を進めている中で、当然お話として出てはいるんですけれども、具体的な協議は、具体的な土地の範囲、面積、それと、今御指摘もありました期間、そういったところ、まずは市側がしっかりと天文台さんに、こうしたいんだということをお示ししないと、協議も先に進まないよねということを、天文台さんからも言われていたところです。

現時点で、市側の検討の熟度がそこまでまだ達していないという状況ですので、この間、その定借に関しての協議がなかなか進んでこなかったといったところがあります。今後、今回はまずは第1段階というところですが、それも、そもそも定借なのかどうかも含めて、具体的な中身の検討の進捗に合わせて、天文台さんにもしっかりと相談をしながら進めていきたいと思っております。

○委員（おばた和仁さん） 分かりました。この定借の問題も含めて、天文台さんの土地をどこまで借りるのかも含めて、今後、しっかりとした交渉、話し合いを天文台さんも含めてやっていただいて、この中間報告、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で終わります。

○委員（吉野けんさくさん） よろしくお願ひします。1点だけ確認させてください。天文台さんから売却したいという話が具体的にあったのかどうかだけ、ちょっと確認をしたいんですけれども。

○まちづくり推進担当課長・国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局次長（野崎昭博さん）

市に対して売却をしたいというお話だとしますと、そういったお話はございませんでした。

○委員（吉野けんさくさん） すみません、私も認識としては、国が補助金を減らして、天文台に自分たちでお金を稼ぐ方法を探してくださいということで、有効活用したいという認識で相談があったので、売却という話は天文台さんから出ていなかった認識だったので、ちょっと質問させていただきました。

[速報版]

○委員長（粕谷 稔さん） その他、よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

それでは、以上で三鷹市国立天文台周辺地区まちづくり推進本部報告を終了いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 休憩いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 委員会を再開いたします。

○委員長（粕谷 稔さん） 議会閉会中継続審査申出について、本件を議題といたします。

調布飛行場周辺の利用及び安全について積極的な対策を講じること及び国立天文台周辺地域のまちづくりに関すること、本件については引き続き調査を行っていくということで、議会閉会中の継続審査を申し出ることにはいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

○委員長（粕谷 稔さん） 次回委員会の日程について、本件を議題といたします。

次回委員会の日程については、次回定例会会期中とし、その間必要があれば正副委員長に御一任いただくことにいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

○委員長（粕谷 稔さん） その他、皆様、何かございますでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようでございますので、本日はこれをもって散会いたします。お疲れさまでした。